

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「慈愛にみちた安堵の暮らし」 自分たちが介護される側として考えた時に、慈愛・安堵という二つの言葉の中に日々の穏やかな生活を見出した。今回、これまでの理念を見直して事業所の新しい理念として作りなおした。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の目に付くところに理念の書かれた紙を貼り、職員は日々、それを意識しながら、業務に取り組むようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の中に地域との接点のある内容は含まれていないが、日々暮らしていかれる中で、皆様がどのような生活を送っておられるのか、ご家族の面会時、行事等への参加の折毎に、写真・ホーム便りなどで、日頃の様子を説明させて頂いている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者・職員とも、隣近所の人と気軽に声を掛け合い、ホームでの行事などにもご参加頂いたりして日頃から交流を心掛けている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として自治会に加入し、町の一斉清掃・行事などへの参加、また地区の文化祭へ、利用者の作品を展示したり、保育所との交流会をするなどして地区との接点を持つようになっている。また、選挙の不在者投票や町に行っている基本検診なども積極的に利用している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	こちらから地域へ出かけて勉強会の開催などという事はないので、地域への貢献度は少ないと思うが、実習生の受け入れや、職場体験などは積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。また、昨年の外部評価の結果に対しては全職員に目を通してもらい、改善点に対しては、向上に向けて努力してきた。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	約2ヶ月に1回、開催しているが活動報告、最近の出来事などを写真を見て頂きながら説明したり、参加者からの質疑応答にお答えし、要望・助言などを頂いて、ホームでの生活の向上に活かすようにしている。また、会議で話し合った事は全職員に報告している。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所は、運営推進会議以外にも、基本検診などへの参加で職員や利用者との交流を図っている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在、対応が必要と思われる利用者がいないが、将来的に必要な可能性もあるの、その制度について学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	今後、高齢者虐待防止法についての研修に参加して学ぶ機会を得たいと思っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては将来的なことも含めてお話しするようにしている。医療部分が多くなってきた時の料金的なリスク、長期入院・状態変化などにより契約解除に至る場合なども含めての内容説明もしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からのご意見・苦情・不満などは職員に言ってこられた時点ですぐに話し合いをし納得して頂くようにしている。現在のところは問題はない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者のご様子は、ご家族の面会の時や、受診時、状態変化時には、その都度、状態報告をさせて頂いている。また、職員の異動などについては、ホーム便りにのせたり、面会時に報告させて頂いたりしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情があればその都度、施設長かケアマネが対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見があれば、聞いた時点ですぐに職員間で検討し、施設長を通して運営者に話が届くようにしており、日常的に意見や提案は反映されている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に3人の勤務体制を組んでおり、急な欠勤の場合でも、潤滑に動けるようなシフトを組むよう、努力している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り人事異動は行わないようにして、離職者が出たときは新職員に早く馴染むよう入居者と一緒に過ごす時間を設けている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成に対しては、勤務時間帯ごとに業務マニュアルを作成しておりそれに沿って、仕事ができるようにしている。また、施設外の研修に対しては、皆が都合を付け合っとなるべく多くの職員が参加できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃から他施設の職員との交流もあり、お互いの施設便りの交換などもしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回の職員会議、全職員会議(十六夜会)を行い、何でも言えるような環境作りをしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得はもちろんのこと、講習会は出来る限り受講するようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報収集、家ではどのような生活をされていたのか？好き嫌い、生活習慣など、お話を伺いそれに沿ったケアを心掛けながら本人自身からもお話を十分に伺って早くホームになじんでいただけるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設利用を希望するにいたった経過などお伺いし、ご本人が入所された場合、ここでどのように生活してもらいたいのか、ご家族が当施設に求めているものを理解するように努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前1名だけ在宅だけで十分に生活できる方が相談に来られたことがあり、支援センターのケアマネージャーに紹介をさせていただいた事例があるが最初からグループホームを希望で相談に来られる方は空室があれば必要性に応じてすぐに入所の手続きが出来るように対処している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初の面会の時点で、施設での生活を受け入れて頂ける方であるかどうかの見極めはさせて頂いている。また、躊躇されておられる方に対しては、事前に見学をして頂き、他の利用者さんとの交流や施設の雰囲気を感じて頂き、納得の上で入所して頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃からご利用者のできる事、出来そうだと思うことには、声掛けをして少しでも生活活動に参加して頂く様になっているが、昔撰った杵柄的なことは学ばせて頂く事が大いにある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子をお伝えする事で、家ではどうであったか等の情報も頂き、入居後もご家族にかかわって頂く事の必要性をお話しし、負担にならない程度で面会をお願いするようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃から日常生活で見せた思いがけない表情や、言動などを写真や文書にして、保存しておき面会時に家族にお見せし、さらに家族愛を深めて頂く等の努力をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段、なかなか会えないけれども気になっている方に対して手紙を出して頂いたり、電話をお勧めするようにしている。また、昔から行きつけの美容院のある方に対しては、希望時、送り迎えをするようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から利用者間の関係は把握しており、表情や態度などから、必要性があれば、職員が間に入って解決する事態も多々ある。一人ひとりが仲間はずれにならないよう気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も時々会いに行くようにしており、家族とも顔を合わせる機会があるときには、近況をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時はもちろんだが生活していられる中で日頃から、本人の希望・意向を把握するよう務めている。意思の疎通が困難な方に対しては、家族に伺ったり、本人が好む事、喜ばれる事を観察しそれをケアの中に取り入れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族の聞き取りをするがその後も継続して、随時、情報収集するようにしている。」		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃の生活の中で、常に色々なことにかかわり、できる事・得意な事を発見できるよう努力している。不得意だと思っていたこと・出来ないと思っていたことが実は上手だったり、日々思わぬ発見がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・家族には日頃から思いを伝えていただきプランに反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常的に状態が変わればすぐにプラン内容の変更・加筆をするようにしている。また、日々のカンファレンス以外にも月に1回ケア会議を開きそこで、全職員で話しあうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、カンファレンスで話し合った事や気づきなどは個別に記録してプラン変更時に活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持つ職員が多いので主治医との医療連携体制を活かして早期退院、入院までに至らぬケースも多くご家族から安心という声も聞かれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、警察や民生委員の会などお誘いがあれば出席するようにしている。又現在、このホームは「子供SOSの家」の指定となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃から他事業所のケアマネジャーとは連絡を取り合い移設の際の情報提供を密にしている。また地域の図書館の利用や、町の行う基本検診の利用など、事業所以外のサービスも利用し、外部との接触の機会を持つようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる利用者に対して、制度の説明をしたことはあったが、本人希望せず、利用した事はない。いずれ、必要があれば利用したいと思っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診を行っており、協力医含む複数の医療機関を利用している。また薬の変更などに対しては職員がその都度主治医にお伝えするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、精神科受診のご利用者が数名おられるが、受診の際に日頃の様子をお伝えして適切な指示を頂いている。	○	相談の内容によっては、本人を交えてできない事も多々あり、職員の相談のみで物忘れ外来を受診する機会も持たたいと思っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持つ職員が多いので医療機関との連携も密に取れる体制が確保されている。また、看護師が不在であっても介護職員の記録を元に、状態報告がすぐに出来るようになっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後も面会を頻回にしているが、入院される事によって認知症状が出現したり、施設でも対応が出来ると判断した場合は家族の希望を伺い主治医と相談の上で早期退院される方も居られる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部のご家族は早い段階で終末期の希望を言われているが、まだ先の事と思っておられるご家族が大半であり、話が進んでいない。	○	今後、家族との話し合いなどの機会を持ちどのような終末を希望されるかの確認を個別にしていきたいと思います。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期になられた場合の体験は無く、本人や家族の意向を伺うまでには至っていない。	○	今後重度化や終末期の問題はご家族との話し合いの機会を持ちどのように希望されるかを個別に明確にしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移られた場合、できるだけ住み替えによるダメージが無い様にグループホームでの生活の様子をきめ細かく書いた情報提供を行うようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者のプライド・プライバシーを損ねるような言葉かけが聞かれた時には、職員がお互いに注意し合う様にしている。また、ケア会議などでも言葉使いについての話し合いを持つようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からなるべく、ご利用者に決定権を持って頂くような働きかけをしている。たとえば、おやつの中の飲み物は何が良いか個別に伺って決めてもらったりしている。性格的に決めることが出来ない方に関しては、複数の選択肢を提案し、本音を引き出すよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重して柔軟に対応している。しかし人数の都合で職員優先になりがち。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人行きつけの美容院へ行かれる方や家族が1.2ヶ月に1度カットにこられる。また、職員がカットを行う方もおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意思を尊重してそのときの状態でお手伝いをされます。片付けは毎日お手伝いされる方もおられ、一人ひとりの役割が明確になっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのあるものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員が利用者一人ひとりの好みをしっかり把握しており、本人の希望通りにしている。今のところは飲酒・喫煙をする方は居られない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して気持ちよく排泄できるように支援している。	○	排泄がうまくできていない方に対しては気付きノートをつくり、一人ひとり観察してこれから取り組みたいと思っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は日によって時間帯を変えて行っていて本人の希望も優先しています。場合によっては職員の都合優先になりがち。	○	入浴拒否の方がおられ、その人をいかに納得させられるか説得を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息のとり方は基本的に個人に任せているが自分で横になれない方に対しては、その日の様子を見て職員が支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や好きなことを職員が理解しており、裁縫の得意な方はカバンを作ったり、衣類を畳む作業が巧みな方には洗濯畳みを任せたり、その人の力を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は自分で小遣い程度は持っておられ、ショッピングの時など自分で払っておられる。又、お金を持っておられない方も計算のできる方に関しては、小額をお渡しして買い物の計算と支払いをお願いする事もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の希望により、散歩・ドライブ・ショッピングなど適時出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時々、家族と食事を共に外出されたり、「庭に花が咲いたので見に来てほしい」との家族からの誘いがあるため外出されたり、島外に住んでいる家族と墓参りに出掛けたり、生活で必要とする衣類などを取りに帰ったり、本人の外出の希望に合わせて個別支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人が自由に電話できる環境を作っている。また正月には家族に年賀状を出すようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めていないので施錠後も玄関のインターホンで対応し24時間いつでも来て頂けるようにしている。また、ご家族の宿泊も可能であり、布団の用意もしている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていないが、夜8時以降は玄関の鍵を掛けている。(20:00～6:00)	○	今後、鍵をかけないためにはどのように見守っていけばいいのか、会議の時に話し合いをしてみる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊の人が居られ。常に様子を観察している。日中はホールでの生活が主である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	今の時点では利用者個人個人が危険物に対応出来ており、片付けもしっかりと行っておられる。その上で危険を防ぐように職員も気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険性の検討は常にしておりヒヤリハットもその都度書いて予防策を話し合っている。また、緊急時の器具・マニュアルなどは一ヶ所にまとめて保管しており、同じ場所においてある。さらに時々勉強会も開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員ではないが経験の少ない職員に対しては、行政の行う救急救命法の講習会に参加してもらったりして、緊急時に備えるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年ではないが消防署の協力を得て、避難訓練や消火器の使い方などの訓練をしている。また年に1回は自主的に1.2回の合同の避難訓練を行うようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	それぞれに病気や怪我の後遺症などでリスクを持っておられる方ばかりであるが、それを踏まえたうえで色々な行事に参加していただいている。病気や事故を過度に恐れての行動制限は身体抑制につながるので体調がよければ散歩・ショッピングなどにもお誘いし、自由に暮らしていただくようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝バイタルチェック以外にも食事量・顔色・行動などで異変があればすぐに受診し必要に応じて検査もするようにしている。また高血圧の方に関しては日頃から血圧手帳に記入しており、受診時にはそれをお見せするようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の紙は誰でも見れるようにファイルに入れており、薬の変更時は申し送りノートなどで情報共有するようにしている。また、医療面での経過記録を作成し、どの職員が受診介助をしても今までの流れがすぐ分るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態によって、食事や水分量・運動、下剤を服用しているなどのコントロールを行っている。	○	便秘症の方に関しては個別に排便チェック表を作成しその方にあった薬の量を把握し、無駄な下剤は服用しなくてよいようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず歯磨きをして頂くように声掛けをし、出来ない方に関しては職員が手助けをして、磨いて頂くようにしている。また職員も一緒に行くことによって促進を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量は全て記録するようになっており、水分量に関しては1500cc以上を目安にしている。好き嫌いの激しい方がおられその人に合った献立を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症に関してはマニュアルを作成して、随時見てもらおうようにしている。また玄関入り口に手洗い、うがいの設備をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所調理器具などの衛生管理方法についての取り決めはないが、冷蔵庫内の点検や布巾・まな板などの消毒等は随時行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を飾りベンチを置く等して気軽に休んで頂く様にしているが、グループホームの設置場所が新興住宅街であり、なかなか気安くやってくださる方も居られない。どうしたら気軽に休んでくださるような雰囲気になるのか検討中です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・トイレの臭気には定期的な点検で特に気を付けている。また壁に利用者さんの作品や写真などを飾ってその時の事を思い出していただいたり、季節の花を飾ったりして季節も感じていただくようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室にソファを置いたり、廊下・フロアとそれぞれに雰囲気の違いにソファがあるのでその時々や一緒に座る相手によって座る場所を変えておられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の用意した新品のものばかりでなく使い込んだ物も入所時に持ってきていただくようお願いし、家族とのつながりを感じていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に温湿時計がかかっており、利用者の状態や反応を見ながら調整している。臭いやよみに対しても定期的に換気をしたり消臭剤を使用したりして気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止めマットを敷いたり、危険性がないか確認し、必要に応じて工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	貼り紙をしたり、職員がその都度お教えしたりして、混乱が生じないよう気を付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて涼んだり、花を眺めたりできるようにしている。またテラスでは園芸や、お茶を楽しまれたり、気候がよくなると外で過ごされる機会も多くなる。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「慈愛にみちた安堵の暮らし」 自分たちが介護される側として考えた時に、慈愛・安堵という二つの言葉の中に日々の穏やかな生活を見出した。今回、これまでの理念を見直して事業所の新しい理念として作りなおした。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の目に付くところに理念の書かれた紙を貼り、職員は日々、それを意識しながら、業務に取り組むようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の中に地域との接点のある内容は含まれていないが、日々暮らしていかれる中で、皆様がどのような生活を送っておられるのか、ご家族の面会時、行事等への参加の折毎に、写真・ホーム便りなどで、日頃の様子を説明させて頂いている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者・職員とも、隣近所の人と気軽に声を掛け合い、ホームでの行事などにもご参加頂いたりして日頃から交流を心掛けている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として自治会に加入し、町の一斉清掃・行事などへの参加、また地区の文化祭へ、利用者の作品を展示したり、保育所との交流会をするなどして地区との接点を持つようになっている。また、選挙の不在者投票や町に行っている基本検診なども積極的に利用している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	こちらから地域へ出かけて勉強会の開催などという事はないので、地域への貢献度は少ないと思うが、実習生の受け入れや、職場体験などは積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。また、昨年の外部評価の結果に対しては全職員に目を通してもらい、改善点に対しては、向上に向けて努力してきた。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	約2ヶ月に1回、開催しているが活動報告、最近の出来事などを写真を見て頂きながら説明したり、参加者からの質疑応答にお答えし、要望・助言などを頂いて、ホームでの生活の向上に活かすようにしている。また、会議で話し合った事は全職員に報告している。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所は、運営推進会議以外にも、基本検診などへの参加で職員や利用者との交流を図っている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在、対応が必要と思われる利用者がいないが、将来的に必要な可能性もあるの、その制度について学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	今後、高齢者虐待防止法についての研修に参加して学ぶ機会を得たいと思っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては将来的なことも含めてお話しするようにしている。医療部分が多くなってきた時の料金的なリスク、長期入院・状態変化などにより契約解除に至る場合なども含めての内容説明もしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からのご意見・苦情・不満などは職員に言ってこられた時点ですぐに話し合いをし納得して頂くようにしている。現在のところは問題はない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者のご様子は、ご家族の面会の時や、受診時、状態変化時には、その都度、状態報告をさせて頂いている。また、職員の異動などについては、ホーム便りにのせたり、面会時に報告させて頂いたりしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情があればその都度、施設長かケアマネが対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見があれば、聞いた時点ですぐに職員間で検討し、施設長を通して運営者に話が届くようにしており、日常的に意見や提案は反映されている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に3人の勤務体制を組んでおり、急な欠勤の場合でも、潤滑に動けるようなシフトを組むよう、努力している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り人事異動は行わないようにして、離職者が出たときは新職員に早く馴染むよう入居者と一緒に過ごす時間を設けている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成に対しては、勤務時間帯ごとに業務マニュアルを作成しておりそれに沿って、仕事ができるようにしている。また、施設外の研修に対しては、皆が都合を付け合っとなるべく多くの職員が参加できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃から他施設の職員との交流もあり、お互いの施設便りの交換などもしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回の職員会議、全職員会議(十六夜会)を行い、何でも言えるような環境作りをしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得はもちろんのこと、講習会は出来る限り受講するようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報収集、家ではどのような生活をされていたのか？好き嫌い、生活習慣など、お話を伺いそれに沿ったケアを心掛けながら本人自身からもお話を十分に伺って早くホームになじんでいただけるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設利用を希望するにいたった経過などお伺いし、ご本人が入所された場合、ここでどのように生活してもらいたいのか、ご家族が当施設に求めているものを理解するように努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前1名だけ在宅だけで十分に生活できる方が相談に来られたことがあり、支援センターのケアマネージャーに紹介をさせていただいた事例があるが最初からグループホームを希望で相談に来られる方は空室があれば必要性に応じてすぐに入所の手続きが出来るように対処している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初の面会の時点で、施設での生活を受け入れて頂ける方であるかどうかの見極めはさせて頂いている。また、躊躇されておられる方に対しては、事前に見学をして頂き、他の利用者さんとの交流や施設の雰囲気を感じて頂き、納得の上で入所して頂くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃からご利用者のできる事、出来そうだと思うことには、声掛けをして少しでも生活活動に参加して頂く様になっているが、昔撰った杵柄的なことは学ばせて頂く事が大いにある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子をお伝えする事で、家ではどうであったか等の情報も頂き、入居後もご家族にかかわって頂く事の必要性をお話しし、負担にならない程度で面会をお願いするようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃から日常生活で見せた思いがけない表情や、言動などを写真や文書にして、保存しておき面会時に家族にお見せし、さらに家族愛を深めて頂く等の努力をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段、なかなか会えないけれども気になっている方に対して手紙を出して頂いたり、電話をお勧めするようにしている。また、昔から行きつけの美容院のある方に対しては、希望時、送り迎えをするようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から利用者間の関係は把握しており、表情や態度などから、必要性があれば、職員が間に入って解決する事態も多々ある。一人ひとりが仲間はずれにならないよう気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も時々会いに行くようにしており、家族とも顔を合わせる機会があるときには、近況をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時はもちろんだが生活していられる中で日頃から、本人の希望・意向を把握するよう務めている。意思の疎通が困難な方に対しては、家族に伺ったり、本人が好む事、喜ばれる事を観察しそれをケアの中に取り入れるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族の聞き取りをするがその後も継続して、随時、情報収集するようにしている。」		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃の生活の中で、常に色々なことにかかわり、できる事・得意な事を発見できるよう努力している。不得意だと思っていたこと・出来ないと思っていたことが実は上手だったり、日々思わぬ発見がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・家族には日頃から思いを伝えていただきプランに反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常的に状態が変わればすぐにプラン内容の変更・加筆をするようにしている。また、日々のカンファレンス以外にも月に1回ケア会議を開きそこで、全職員で話しあうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、カンファレンスで話し合った事や気づきなどは個別に記録してプラン変更時に活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の資格を持つ職員が多いので主治医との医療連携体制を活かして早期退院、入院までに至らぬケースも多くご家族から安心という声も聞かれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、警察や民生委員の会などお誘いがあれば出席するようにしている。又現在、このホームは「子供SOSの家」の指定となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃から他事業所のケアマネジャーとは連絡を取り合い移設の際の情報提供を密にしている。また地域の図書館の利用や、町の行う基本検診の利用など、事業所以外のサービスも利用し、外部との接触の機会を持つようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる利用者に対して、制度の説明をしたことはあったが、本人希望せず、利用した事はない。いずれ、必要があれば利用したいと思っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診を行っており、協力医含む複数の医療機関を利用している。また薬の変更などに対しては職員がその都度主治医にお伝えするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、精神科受診のご利用者が数名おられるが、受診の際に日頃の様子をお伝えして適切な指示を頂いている。	○	相談の内容によっては、本人を交えてできない事も多々あり、職員の相談のみで物忘れ外来を受診する機会も持たたいと思っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持つ職員が多いので医療機関との連携も密に取れる体制が確保されている。また、看護師が不在であっても介護職員の記録を元に、状態報告がすぐに出来るようになってきている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後も面会を頻回にしているが、入院される事によって認知症状が出現したり、施設でも対応が出来ると判断した場合は家族の希望を伺い主治医と相談の上で早期退院される方も居られる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部のご家族は早い段階で終末期の希望を言われているが、まだ先の事と思っておられるご家族が大半であり、話が進んでいない。	○	今後、家族との話し合いなどの機会を持ちどのような終末を希望されるかの確認を個別にしていきたいと思います。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期になられた場合の体験は無く、本人や家族の意向を伺うまでには至っていない。	○	今後重度化や終末期の問題はご家族との話し合いの機会を持ちどのように希望されるかを個別に明確にしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移られた場合、できるだけ住み替えによるダメージが無い様にグループホームでの生活の様子をきめ細かく書いた情報提供を行うようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者のプライド・プライバシーを損ねるような言葉かけが聞かれた時には、職員がお互いに注意し合う様にしている。また、ケア会議などでも言葉使いについての話し合いを持つようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からなるべく、ご利用者に決定権を持って頂くような働きかけをしている。たとえば、おやつの中の飲み物は何が良いか個別に伺って決めてもらったりしている。性格的に決めることが出来ない方に関しては、複数の選択肢を提案し、本音を引き出すよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重して柔軟に対応している。しかし人数の都合で職員優先になりがち。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人行きつけの美容院へ行かれる方や家族が1.2ヶ月に1度カットにこられる。また、職員がカットを行う方もおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意思を尊重してそのときの状態でお手伝いをされます。片付けは毎日お手伝いされる方もおられ、一人ひとりの役割が明確になっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員が利用者一人ひとりの好みをしっかり把握しており、本人の希望通りにしている。今のところは飲酒・喫煙をする方は居られない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して気持ちよく排泄できるように支援している。	○	排泄がうまくできていない方に対しては気付きノートをつくり、一人ひとり観察してこれから取り組みたいと思っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は日によって時間帯を変えて行っていて本人の希望も優先しています。場合によっては職員の都合優先になりがち。	○	入浴拒否の方がおられ、その人をいかに納得させられるか説得を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息のとり方は基本的に個人に任せているが自分で横になれない方に対しては、その日の様子を見て職員が支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や好きなことを職員が理解しており、裁縫の得意な方はカバンを作ったり、衣類を畳む作業が巧みな方には洗濯畳みを任せたり、その人の力を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は自分で小遣い程度は持っておられ、ショッピングの時など自分で払っておられる。又、お金を持っておられない方も計算のできる方に関しては、小額をお渡しして買い物の計算と支払いをお願いする事もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の希望により、散歩・ドライブ・ショッピングなど適時出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時々、家族と食事を共に外出されたり、「庭に花が咲いたので見に来てほしい」との家族からの誘いがあったり、島外に住んでいる家族と墓参りに出掛けたり、生活で必要とする衣類などを取りに帰ったり、本人の外出の希望に合わせて個別支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人が自由に電話できる環境を作っている。また正月には家族に年賀状を出すようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めていないので施錠後も玄関のインターホンで対応し24時間いつでも来て頂けるようにしている。また、ご家族の宿泊も可能であり、布団の用意もしている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていないが、夜8時以降は玄関の鍵を掛けている。(20:00～6:00)	○	今後、鍵をかけないためにはどのように見守っていけばいいのか、会議の時に話し合いをしてみる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊の人が居られ。常に様子を観察している。日中はホールでの生活が主である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	今の時点では利用者個人個人が危険物に対応出来ており、片付けもしっかりと行っておられる。その上で危険を防ぐように職員も気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険性の検討は常にしておりヒヤリハットもその都度書いて予防策を話し合っている。また、緊急時の器具・マニュアルなどは一ヶ所にまとめて保管しており、同じ場所においてある。さらに時々勉強会も開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員ではないが経験の少ない職員に対しては、行政の行う救急救命法の講習会に参加してもらったりして、緊急時に備えるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年ではないが消防署の協力を得て、避難訓練や消火器の使い方などの訓練をしている。また年に1回は自主的に1.2回の合同の避難訓練を行うようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	それぞれに病気や怪我の後遺症などでリスクを持っておられる方ばかりであるが、それを踏まえたうえで色々な行事に参加していただいている。病気や事故を過度に恐れての行動制限は身体抑制につながるので体調がよければ散歩・ショッピングなどにもお誘いし、自由に暮らしていただくようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝バイタルチェック以外にも食事量・顔色・行動などで異変があればすぐに受診し必要に応じて検査もするようにしている。また高血圧の方に関しては日頃から血圧手帳に記入しており、受診時にはそれをお見せするようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の紙は誰でも見れるようにファイルに入れており、薬の変更時は申し送りノートなどで情報共有するようにしている。また、医療面での経過記録を作成し、どの職員が受診介助をしても今までの流れがすぐ分るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態によって、食事や水分量・運動、下剤を服用しているなどのコントロールを行っている。	○	便秘症の方に関しては個別に排便チェック表を作成しその方にあった薬の量を把握し、無駄な下剤は服用しなくてよいようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず歯磨きをして頂くように声掛けをし、出来ない方に関しては職員が手助けをして、磨いて頂くようにしている。また職員も一緒に行くことによって促進を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量は全て記録するようになっており、水分量に関しては1500cc以上を目安にしている。好き嫌いの激しい方がおられその人に合った献立を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症に関してはマニュアルを作成して、随時見てもらおうようにしている。また玄関入り口に手洗い、うがいの設備をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所調理器具などの衛生管理方法についての取り決めはないが、冷蔵庫内の点検や布巾・まな板などの消毒等は随時行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を飾りベンチを置く等して気軽に休んで頂く様にしているが、グループホームの設置場所が新興住宅街であり、なかなか気安くやってくださる方も居られない。どうしたら気軽に休んでくださるような雰囲気になるのか検討中です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・トイレの臭気には定期的な点検で特に気を付けている。また壁に利用者さんの作品や写真などを飾ってその時の事を思い出していただいたり、季節の花を飾ったりして季節も感じていただくようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室にソファを置いたり、廊下・フロアとそれぞれに雰囲気の違いにソファがあるのでその時々や一緒に座る相手によって座る場所を変えておられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の用意した新品のものばかりでなく使い込んだ物も入所時に持ってきていただくようお願いし、家族とのつながりを感じていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に温湿時計がかかっており、利用者の状態や反応を見ながら調整している。臭いやだよみに対しても定期的に換気をしたり消臭剤を使用したりして気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止めマットを敷いたり、危険性がないか確認し、必要に応じて工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	貼り紙をしたり、職員がその都度お教えしたりして、混乱が生じないよう気を付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて涼んだり、花を眺めたりできるようにしている。またテラスでは園芸や、お茶を楽しまれたり、気候がよくなると外で過ごされる機会も多くなる。		